

作業学習 指導内容表



平成25年 3月

大分大学教育福祉科学部附属特別支援学校

◇指導内容設定の立場◇

将来の生徒の働く姿を考えると、望まれているものは、“自分から取り組むこと”“きちんと作業をすること”“はやくたくさん作業をすること”“職場の中で明るくとけ込んでいくこと”などである。したがって、ただ作業が“できる”という姿ではなく、“作業の意欲や態度”にかかわるものを、作業学習で中心に指導する指導内容とすることになっている。

◇指導内容の設定にあたって◇

作業学習で中心にねらっているものは“作業の意欲や態度”にかかわるものである。文部科学省から出されている「指導要領解説」「作業学習の手引き」などを参考に、次のような観点から、作業学習で中心に指導する内容を整理した。

- 卒業後の生活で、子どもたちに望まれている「自分から作業に取り組む」「きちんと作業をすること」など必要なものは何か
- どの作業にも共通し、中学部・高等部での6年間の指導で、系統的に発展させてしていくものは何か

このようにして、まとめたものを「要素」と呼び、次の7つを作業学習で中心に指導する内容とした。

【7つの要素】

- 自主・持続性 ～ 自分から進んで作業に取り組み、最後までしてしまうこと
- 確実性 ～ 確かできちんとした作業をすること
- 安全性 ～ 自分や周りの人の安全を考えて作業をすること
- 協調性 ～ 周りの人と協力して作業をすること
- 計画性 ～ 製品のでき高や時間などを見通して作業をすること
- 創造性 ～ 自分の作業の仕方をよりよい方向へ変えていくこと
- 経済性 ～ 原料や部品、道具や機械を無駄なく使うこと

【要素ごとのつけたい力】

要素	つけたい力
自主・持続性	興味・関心 成功感 成就感 責任感
確実性	模倣力 注意力 理解力 判断力 洞察力 応用力
安全性	注意力 理解力 判断力
協調性	注意力 理解力 判断力 洞察力 責任感
計画性	理解力 判断力 洞察力 応用力
創造性	理解力 判断力 洞察力 応用力
経済性	理解力 判断力 洞察力

【各段階の視点】

I 段階	II 段階	III 段階	IV 段階	V 段階
教師の指示などの手助けによって、活動の仕方などを理解する段階	簡単な事柄を理解し、自分で判断して活動する段階	自分のした活動とその結果を理解し、自分で仕方を判断して活動する段階	理解したことを関連させて新しい視点に目を向けたり気づいたりして早く活動する段階	理解した事柄を幅広く関連させて、判断したり、見通したりして活動する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心 ・成功感 ・成就感 ・注意力 ・理解力 ・模倣力 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心 ・成功感 ・成就感 ・注意力 ・理解力 ・判断力 	<ul style="list-style-type: none"> ・成功感 ・成就感 ・注意力 ・理解力 ・判断力 	<ul style="list-style-type: none"> ・注意力 ・理解力 ・判断力 ・洞察力 	<ul style="list-style-type: none"> ・注意力 ・理解力 ・判断力 ・洞察力 ・応用力
←————— 自分の活動に目を向ける段階 —————→			← 全体的な活動にも目を向ける段階 ⇒	

1. 自主・持続性

【一般的には】

「自主性」とは、一般的には『他人からさしずされたり、他の力を借りたりせずに、自分から進んでやろうということすること』をいう。

「持続性」とは、一般的には『ある状態がそのまま続くこと。また、保ち続けること。継続』をいう。

【本校作業学習では】

『作業学習』を通して育てようとする、〈自主的・持続的に仕事をする〉子どもとは、《意欲を持って、自ら仕事に取り組む》子どもである。

自主的に仕事をするかどうかは、将来の職業生活を営む前提となるものにとらえている。周りの人から、仕事をするように指示を受けたりするようでは、いかなる職業生活においても、自立はおぼつかない。そのため、『作業学習』においては、勤労を重んずる態度を養うこともねらいの一つとして指導が行なわれる。

【自主・持続性を身につけた子どもとは】

《意欲を持って、自ら仕事に取り組む》子どもとは、具体的には、以下の視点で考えている。

- ・自分から必要な材料や道具を準備し、仕事に取り組むこと
- ・決まった数の仕事や与えられた仕事をしてしまうこと
- ・仕事が終わったら報告したり、分からないときには、質問したりして、仕事を続けてすること

【自主・持続性を身につけるために必要な力】

『作業学習』において、「自主的に仕事を進める」ようになるためには、仕事をなし遂げた喜び(成就感)や製品がうまくできた喜び(成功感)を味わわせたり、仕事に対する興味・関心を持たせたりして、仕事の楽しさを知らせていくことが大切になる。さらに、自分が任せられた仕事を最後までしてしまうなどの責任感を持たせたりすることが必要であろうと考えている。

これらの取り組みは、授業の中で絶えず考慮しておこなうべきであり、子どもが仕事に興味を持ち、成就感・成功感を味わったり、責任を持って仕事をしたりするような方法は、一人ひとりの子どもの実態に即して工夫される必要がある。

また、作り方や仕方の理解不足から確実な作業ができないために、「自主的・持続的に仕事をする」姿が見られないことがある。しかし、これは、理解力を育て「確実性」高めることにより解消できるものであり、と考えられる。このように、自主的に仕事をしない原因は何であるかを見極めることが大切であり、他の要素と関連している場合もある。

なお、段階毎に必要な力については次のように考えている。

段階	必 要 な 力
I	・製品や仕事のできた喜び(成功感)や作業をしたことを周りから認められる喜び(成就感・達成感)
II	・渡された数(量)の仕事をしてしまったり、任された仕事のできた「成功感」や「成就感」
III	・みんなと一緒に作業する「成就感」・家族の一員として認められる「成就感」
IV	・担当した(任された)仕事を最後まで仕上げる「責任感」・自分のすべき仕事に移る「判断力」
V	・周りの状況を理解する「理解力」や「洞察力」・自分のすべき仕事に移る「判断力」

指導内容を作る際には、上記のような視点に沿って、《どのように自主的・持続的な作業を進めるか》を整理し、『指導内容段階化の視点』に沿って振り分けた。

自主・持続性の指導内容

段階 場面	I	II	III	IV	V
計 画 ・ 準 備	<ul style="list-style-type: none"> ○作業着に着替えるように誘われて、作業着に着替える ○作業に行くことを聞いて、集合場所や仕事場に集まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業の開始を聞き、作業場所に行く ○担当した仕事を言われて、必要な道具と材料を準備し、仕事に取りかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ○時計を見たりして作業の時間になったら、作業場所へ行く ○作業場に行ったら、自分の担当した仕事に必要な道具・材料を準備して、仕事に取りかかる ○時計を見たり、声をかけられたりして、任された仕事(家事)に取りかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ○時計を見たりして、作業時間に間に合うように着替え、作業場に行く ○時間や天候を見て家事に取りかかる 	—
作 業 中	<ul style="list-style-type: none"> ○誘われて道具や材料を取りに行き、仕事(家事)に取りかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ○渡された量(数)の仕事をしてしまう ○頼まれた簡単な家事(「○○を持ってきて」など)を一人でする 	<ul style="list-style-type: none"> ○材料がなくなったら取りに行き、時間や頼まれた仕事が終わるまで、言われた仕事をする ○任された仕事が終わったら、次の作業に移る 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分に与えられた仕事が終わるまで、必要な材料を取りに行き、仕事をしてしまう ○自分の仕事が終わったら、報告したり、わからないことがあったら質問したりして、仕事をする ○相手の動きや様子から自分のする仕事を決めて取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ○周りの状況や同僚の動きなどいくつかの視点で、自分のする仕事を決めて取りかかる
片 づ け	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事が終わることを聞き、持ち物を持って、名札を返して退出する 	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事の終わりを聞き、自分の使った道具や材料を片づける 	<ul style="list-style-type: none"> ○使った道具や材料の片づけが終わったら、自分の作業場所の掃除をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○使った道具や材料の片づけが終わったら作業場所全体の掃除をする 	—

ア…段階とつけたい力との関連

イ…目を向ける仕事の範囲

段階	I	II	III	IV	V
ア	興味・関心 成功感 成就感	興味・関心 成功感 成就感・達成感	成功感 成就感・達成感	責任感	責任感 洞察力
イ	自分の範囲			全体の範囲	

2. 確実性

【一般的には】

「確実」とは、一般的には、『変更、間違い、失敗などのない様子・確かで疑うことができないこと。確か
で、危なげのないこと。また、その度合い。』を意味する

【本校作業学習では】

『作業学習』において、「確実性」を身につけた子どもとは、『一つひとつの作業をきちんとする子ども』
であるととらえている。

将来の職業生活を営む上において、確実な仕事ができるかどうかは、対外的な信用にもつながる極めて
重要な問題であり、子どもたちの進路先を想定する上においても、その判断材料として、大きなウェイトを
占めるものである。また、

- ・家事労働においても、きちんとできることで本人の役割として家事が位置付いてくる。
- ・事務作業やメンテナンス作業では、任された仕事をきちんと進めることや自分の仕事の確かめをしな
がら仕事を進めることが大切である。
- ・接客作業では、相手の気持ちを考えて、接客の仕方を決めたり、その仕方を守って仕事を進めることが
大切である。

そのため、『作業学習』で育てようとする要素の中でも、「確実性」は、特に重点を置いて指導すべきものと
とらえている。

【確実性を身につけた子どもとは】

作業を行なう上で、「一つひとつの作業をきちんとする」とは、具体的には、以下の視点で考えている。

- ・一連の手順を決まった順番通りに作業すること
- ・基準となるものに合っているかなどを確かめたり、修正したりしながら作業すること
- ・製品や作業などのでき具合を確かめたり、修正したりしながら作業すること
など

【確実性を身につけるために必要な力】

『作業学習』において、確実な仕事ができるようになるためには、生産までの様々な活動にかかわる模倣
力、注意力、理解力、判断力、洞察力、応用力といった力を身につけさせることが大切である。また、確実に
できるようになると任された作業を責任を持って進めるようになって考えている。各段階の必要な力は、
次のように考えている。

段階	必 要 な 力
I	・作業を進める順番や仕方がわかる「理解力」
II	・作業の進み具合を見て、次の作業に移る「判断力」
III	・理解した事実をもとに、決まった仕方や順番で作業を進める「判断力」
IV	・理解した事実をもとに、はやく、正確に見直しや修正をして作業を進める「判断力」
V	・できた製品を、理解した事実を応用して見直し、作業の仕方のまずかった部分を見極める「洞察 力」

指導内容表を作る際には、上記のような視点に沿って、「どのように確実な作業を進めるのか」を整理
し、『指導内容段階化の視点』に沿って振り分けた。

確実性の指導内容

段階 場面	I	II	III	IV	V
計画・準備	○指示を聞いて、作業に必要な道具や材料を一つひとつ準備する	○必要な道具や材料を自分の持ち場に準備する	○必要な道具や材料を自分の持ち場の所定の位置に準備する	○道具や材料を確かめて、よい物を選び、所定の場所に準備する	○分担箇所に応じて必要な道具や材料を点検し、よい物を所定の場所に準備する
作業中	○仕事内容の一つひとつ聞いて作業をする	○表裏(2面)上下、順番などに気をつけて作業をする	○表裏・側面(4~6面)上下・左右、重さや長さなどに気をつけて作業をする ○マナーなどから作業の仕方を決めて作業をする ○自分の作業した結果を数や向き、状態などの決まった視点から確かめて作業を進める	○基準にあっているか、部品や半製品がきちんとできているかなどに気をつけて、2~3の視点から見直し、必要に応じて修正して作業をする ○きちんと見直し・修正をして作業をする	○製品(作業)全体がきちんとできているかなどに気をつけて、いくつかの視点で見直し、必要に応じて修正して作業をする
片づけ	○指示を聞いて、使った物を所定の場所に片づける	○使った物を所定の場所に片づける	○使った物を位置や向きに気をつけ、所定の場所に片づける	○使った道具や機械の点検・手入れをして片づける	○使った道具や機械の点検・修理をして片づける

ア…段階とつきたい力との関連

イ…目を向ける仕事の範囲

段階	I	II	III	IV	V
ア	注意力 理解力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力 洞察力	注意力 理解力 判断力 洞察力
イ	自分の範囲			全体の範囲	

3. 安全性

【一般的には】

「安全性」とは、一般的に「身体に危険を受けるおそれがないこと、物に損傷や損害を受けることのないこと」という。

【本校作業学習では】

子どもの就職先や現場実習、家庭で行う家事などでは、様々な用具や器具、機械を使う。また、仕事によっては、材料や原料などにも、安全に配慮しなければならない物を扱うこともある。そして、それらを用いた大勢の人たちと働く環境にある。そうした意味で作業学習では、「自分や他人、物などに配慮して作業をする子ども」であることが望まれる。用具や器具、材料・原料をいかに安全に扱うか、また、周りの人に危険を負わせない、自ら危険を負わないように注意をはらって作業することは、作業活動を一人で進めるためには基本になる。

【安全性を身につけた子どもとは】

作業を行なう上で、「安全に作業を進める」とは、具体的には、以下の視点で考えている。

- 用具や材料の扱いを理解して、安全に作業する
 - 作業内容や仕方を理解して、安全に気をつけて作業をする
 - 周囲の人の動きや状況を理解して、安全に気をつけて作業をする
- など

【安全性を身につけるために必要な力】

『作業学習』において、安全な仕事ができるようになるためには、様々な活動にかかわるときに気をつけること、理解力、注意力、判断力といった力を身につけさせることが大切である。また、安全に作業が進められることで、任された作業を一人で進めることができるようになって考えている。各段階の必要な力は、次のように考えている。

段階	必 要 な 力
I	•道具などの安全な使い方がわかる「注意力」
II	•安全な作業の仕方がわかる「理解力」
III	•安全な作業の仕方や道具の使い方に気をつける「注意力」
IV	•作業の状況や周りの状況を見て安全な仕方で行進める「判断力」

指導内容表を作る際には、上記のような視点で「どのように安全に作業を進めるのか」を『指導内容段階化の視点』に沿って振り分けた。

安全性の指導内容

段階 場面	I	II	III	IV	V
計画・準備	○教師と一緒に危険な部分に気をつけて、道具や材料を準備する	○教師の指示を聞いて、危険のない持ち方や運び方で道具や材料を準備する ○教師の指示を聞いて、安全のために必要な物を身につける	○決められ危険のない仕方、道具や材料を準備する ○決められた安全のために必要なものを身につける	○危険のない仕方、道具・機械・材料を用意する ○安全のために必要なものを身につける ○道具や材料など周りや状況を見て、置く場所や配置を決める	—
作業中	○指示に従って、安全な道具や材料の取り扱いで作業をする	○道具や材料の安全な取り扱い方に注意して作業をする	○危険のない道具・機械・材料の取り扱い、火気・換気に注意して作業をする	○周りの状況などに気をつけて危険のない道具・機械・材料の取り扱い方で作業をする ○周りの状況や様子に気をつけて、行動(作業)する	—
片づけ	○教師と一緒に危険な部分に気をつけて、道具や材料を片づける	○教師の指示を聞いて、危険のない持ち方や運び方で道具や材料を片づけたり整理・整頓したりする	○決められ危険のない仕方、道具や材料の片づけ、整理・整頓をしたり、決められた仕方、安全のために必要な清掃をしたりする	○危険のない仕方、道具・機械・材料の片づけ、整理・整頓をしたり、安全のために必要な清掃をしたりする	—

※IV段階までに安全に作業が進められるようになってほしいと考えているので、V段階には、指導内容は設定していない。

ア…段階とつけたい力との関連

イ…目を向ける仕事の範囲

段階	I	II	III	IV	V
ア	注意力 理解力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力 洞察力	
イ	自分の範囲			全体の範囲	

4. 協調性

【一般的には】

協調性とは「異なった環境や立場に存する複数の者が互いに助け合ったり譲り合ったりしながら同じ目標に向かって任務を遂行する素質」という。

【本校作業学習では】

作業学習では、作業活動を中心とする実際的な経験を通して、将来、職業生活及び家庭生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能、労働を重んじる態度を育てるものであり、進んで社会生活に参加していく態度を培うことを意図している。作業学習で「協調性のある子ども」とは、このような職場や家庭で複数の人(職場の組織)の中で、作業中のルールや決まりを守って作業を進めたり、作業をスムーズに遂行される、作業を手伝ったり、協力して作業を進めたりすることととらえている。特にチームプレイで目標を達成する、接客サービスやメンテナンス作業においては、個人の能力だけでなくチームへの協調も求められることから、子どもには指導すべきものである。

【協調性を身につけた子どもとは】

「協調性のある子ども」とは、作業中のルールや決まりを守って作業を進めることが前提になる。たとえば、自分の仕事を離れずに作業をする、時間になったら作業を始めるなど、作業をスムーズに進めるためには必要なことであり、個人に任された作業をまずは遂行することが協調性の前提になる。その上で、自分が属する作業班に任された作業全体を理解し、お互いに助け合ったり譲り合ったりしながら、同じ目標に向かって協力して作業活動に取り組む姿であり、同僚から手助けを頼まれたら、手伝ったり、任された仕事が終わったら仕事の進み具合や作業時間を見通して、自分のできる作業に取りかかったり、同僚の作業を手伝ったりして協力して作業を進めることととらえている。

そこで《協調性のある子ども》とは、具体的には、以下のように考えている。

- ・手助けを求められて、作業を手伝う
- ・自分の作業が終わったら、次にする作業の指示をあおいで取り組む
- ・自分の作業が終わったら、自分のチームの作業を手伝う
- ・自分の作業が終わったら、作業の遅れている仕事を手伝う
- ・周りの状況から自分の仕事を考えて取り組む
など、任された作業や全体の作業の進み具合に目を向けて協力して作業を進める子ども

【協調性を身につけるために必要な力】

このような「協調性」を育てていくためには、自分の担当した作業を進める理解力はもちろんのこと、自分の仕事や周りの仕事の状況を見て自分のすべきことを考える観察力や判断力、仕事全体の進み具合から手伝える仕事を考える洞察力などが必要になる。これらの必要な力を各段階毎に整理すると以下のようになる。

段階	必要な力
I	・自分の持ち場で作業に取り組む「理解力」「判断力」
II	・自分の仕事の必要性を知り、自分の作業に取り組む「理解力」「判断力」
III	・みんなと一緒に作業する「成就感」 ・家族の一員として認められる「成就感」
IV	・周りの仕事の様子や状況を見て取りかかる「理解力」や「判断力」
V	・作業全体を見通して自分のすべきことを考える「洞察力」や「責任感」

協調性の指導内容

	I	II	III	IV	V
計画・準備	—	—	—	○仲間と相談しながら分担して道具の材料をそろえる	—
作業中	○教師と一緒に作業を進める	○みんなと同じ場所で作業に取り組む	○作業場の決まりを守って作業をする ○声をかけられて、他の人の作業を手伝う	○相手の動きを見て、自分の作業の動きを決めて作業をする ○遅れている作業や一人でできない仕事などを手伝って作業をする ○担当した仕事を一緒にする人とお互いの仕事の進み具合を伝えあいながら作業をする	○できたものや道具・材料などを次の人が使いやすいように配置したり、邪魔にならないように作業したりする ○同僚の仕事の状況から自分のできる仕事を手伝って作業をする ○作業の進み具合や作業時間から、全体の作業で自分がすべき仕事を考えて、次の仕事に移る
片づけ			○声をかけられて他の場所の片づけを手伝う	○自分の片づけが終わったら遅れているところを手伝って片づける	

ア…段階とつけたい力との関連

イ…目を向ける仕事の範囲

段階	I	II	III	IV	V
ア	注意力 理解力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力 洞察力	注意力 理解力 判断力 洞察力
イ	自分の範囲			全体の範囲	

5. 計画性

【一般的には】

「計画性」とは、一般的に「ある事を行うために、あらかじめ方法や順序などを考えること。また、その考えの内容・プラン」をいう。

【本校作業学習では】

作業活動を中心に行う『作業学習』において、「計画性」とは、作業を始めるにあたって、はやく作る・はやくたくさん作るなど時間に目を向けて、作業の仕方を考えたり、分担箇所を考え作業計画を立てたりすることととらえている。

将来の職業生活を営む上においても、確実に作業するだけでなく、営利を目的とする事業所などでは、たくさんのものはやく作る、決められた時間や納期までに作る、決められた時間までに作業をしてしまう、短時間で作業をすませるなど「計画的に仕事をする」ことは必要であり、確実に仕事を進めることができる子どもには指導すべきものである。

【計画性を身につけた子どもとは】

この「計画性」の具体的な内容は、作業にかかる時間に目を向けさせることから、「準備や作業の効率的な作業の仕方を工夫する」、全体の仕事の進み具合から、「遅れている分担箇所やたくさん作らなければならない分担箇所を考えて、自分のする仕事を決めて作業する」など、作業を効率よく進めることが考えられる。

そこで《計画的に仕事をする子ども》とは、具体的には、以下のように考えている。

- ・作業を始める前に、はやく、たくさんできるようにどの分担箇所から始めればよいか考えて作業に取りかかる
- ・はやく、たくさんできるように同じ仕事をまとめてする
- ・はやく、たくさんできるように道具や材料を配置する
など、時間に目を向けて効率的に作業を進める子ども

【計画性を身につけるために必要な力】

このような「計画性」を育てていくためには、「はやくする(作る)」「たくさん作る」ことの必要性や「同じ仕事をまとめる」「たくさんする」ことやそのよさを理解する「理解力」と自分の分担(担当)した作業や次の人の作業、あるいは全体の作業の進み具合などを見通す「洞察力」を高めていくことが大切になってくる。これらの必要な力を各段階毎に整理すると以下ようになる。

段階	必要な力
Ⅳ	・“同じ仕事”“まとめてする”ことがわかる「理解力」 ・まとめてするよさがわかる「理解力」 ・自分の担当した範囲の作業で、同じ場所、同じ仕事や道具を使った作業がどこにあるかを見通す「洞察力」 ・自分の担当した範囲で製品や半製品などを仕上げるのに必要な材料の量や時間を見通す「洞察力」
Ⅴ	・複数の作業を進める時の仕方(同じ仕事を一緒にする・お互いに違う仕事をするなど)を理解する「理解力」 ・自分と同じ担当の人数を考えて、はやく仕事が進む仕方を見通す「洞察力」 ・自分と同じ分担箇所の人数や、前後の工程(仕事)の作業の進み具合などから、はやく仕事が進む仕方を見通す「洞察力」 ・残った半製品などの量から次の作業時間に何から始めるか作業の順番を見通す「洞察力」 ・次の作業時間に必要な半製品などの量を残った半製品などの量から見通す「洞察力」

指導にあたっては、作業の進め方や仕方ははやくさに目を向けさせて考えることになるので子どもに与える「課題」が重要になる

計画性の指導内容

段階 場面	IV	V
計画・準備	<ul style="list-style-type: none"> ○準備にかかる時間を見通して、同じ方向にある道具や材料をまとめて準備をする ○自分の担当した作業で、できた製品や部品の数や作業にかかる時間などを見通して、遅れている作業から始めるなど仕事の順番を決めて作業に取りかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業に必要な時間や原材料・部品の量、人数などの状況を見通して、分担箇所を決める ○自分の担当する作業や、前後の工程の部品の残量や作業する人数などを見通して、遅れている作業から始めるなど自分のする仕事や順番を決めて作業に取りかかる ○天候や時刻を見通して、自分の作業の順番を決めて取りかかる
作業中	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当した作業で、できた製品(部品)の量や作業にかかる時間などを見通して、同じ仕事をまとめて作業を進める ○自分の担当した作業で、作業にかかる時間や手間などを見通して、道具や材料をはやくできる配置にして作業を進める ○自分の担当した作業で、作業にかかる時間や待ち時間などを見通して、仕事の順番を決めて作業を進める ○はやく、きちんとできるように仕事の順番や仕方を決めて作業をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間が空いているときに、必要なものを準備したり、片づけたりして作業を進める
片づけ	<ul style="list-style-type: none"> ○片づけにかかる時間を見通して、同じ方向にある道具や材料をまとめて片づける 	<ul style="list-style-type: none"> ○次の時間の作業準備にかかる時間を見通して、道具や材料の置き場を変えたり整理したりして、片づける

「計画性」は、「確実性」の段階と照らし合わせて(確実な作業を進めることが前提となることから)、自分の作業を確実に進められるIV段階・V段階に設定している。

ア…段階とつきたい力の関連 イ…目を向ける仕事の範囲

段階	IV	V
ア	理解力・洞察力	理解力・洞察力・応用力
イ	自分の仕事の範囲	作業全体の範囲

《段階化の視点》

	IV	V
視点	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当した作業の範囲を見通して活動する ・自分の担当した範囲の作業の仕方を見通して活動する ・自分の担当した範囲で、必要な作業時間を見通して活動する 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当した作業の前後や作業全体の作業の流れの範囲を見通して作業をする ・自分の担当した範囲で、必要な半製品の量や時間を見通して活動する ・自分の担当した範囲の前後の工程(作業)の作業量を見通して活動する ・次の作業時間の作業の仕方を見通して活動する ・次の作業時間に必要な半製品の量を見通して活動する

6. 創造性

【一般的には】

「創造性」とは、一般的に「それまでなかったものを初めてつくり出すこと」をいう。しかし、ここでいう創造性とは目的ではなく、何をするための(何のために)、その新しいことが必要なのかによって、その作り出されたものが評価するものである。

【本校作業学習では】

作業学習では、製品を作り上げる作業では、ある程度仕方は決まっており、新たに作り出すことはない。しかし、自分の作業の仕方を見直すと何度も同じことを繰り返して、時間がかかりすぎていたり、手間がかかったりする場合がある。また、喫茶などの作業では、自分の作業のしやすさではなく、相手の立場に立った作業の仕方を考えて作業をする必要がある。このように「手間がかからないように仕方を工夫する」「相手の気持ちやしやすさから作業の仕方を工夫すること」など作業の仕方考えることをさす。

【創造性を身につけた子どもとは】

この「創造性」の具体的な内容は、作業の手間やしやすさから、「仕事の順番や配置を工夫する」、自分の仕事の仕方を相手の立場から考えて「迷惑にならない仕方やしやすい仕方を決めて作業する」など、作業の仕方を工夫して作業を進めることが考えられる。

そこで《創造的に仕事をする子ども》とは、具体的には、以下のように考えている。

- 手間などから仕事の仕方を工夫する
 - 使いやすいように道具や材料を配置する
 - 同じ道具を使う作業をまとめてする
 - 仕上がり具合から、仕事の順番を決めて作業する
 - 自分の作業量からまとめて材料を運んで、取りかかる
 - チームや相手の気持ちやしやすさを考えて作業をする
- など、自分の仕事への取り組み方を見直して、作業を進める子ども

【創造性を身につけるために必要な力】

このような「創造性」を育てていくためには、「手際よく作業をする」「はやくすませる」ことの必要性や「配置や仕方によって作業の効率が変わるなどよさを理解する「理解力」が必要になる。また、自分の仕方を相手の立場に立って考える「観察力」やその仕方でしたときの結果を考える「洞察力」「推理力」を高めしていくことが大切になってくる。これらの必要な力を各段階毎に整理すると以下ようになる。

段階	必 要 な 力
Ⅳ	• 作業内容や出来具合を見通す「洞察力」 • 作業の順番や道具の配置からしやすさを考える「理解力」 • 相手の様子を見る「観察力」や自分の行動から相手の気持ちを推し量る「洞察力」
Ⅴ	• 状況を見る「観察力」「理解力」 • 状況を見てどうするかを考える「洞察力」と「判断力」 • 状況に応じて活動を定める「応用力」

指導にあたっては、作業のしやすさや相手の立場など目を向けさせて考えることになるので子どもに与える「課題」が重要になる

創造性の指導内容

段階 場面	IV	V
計画・準備	—	—
作業中	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ作業を繰り返さないように、仕方や順番を決めて作業をする ○自分や一緒に仕事をする人のしやすさ、使いやすさから、道具の配置を決めて作業をする ○相手の使いやすさやしやすさを考えて仕方を決めて、作業をする ○相手の気持ち(快・不快)を考えて仕方を決めて、作業をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事の進み具合や状況に応じて、自分のする作業を考えて進める ○状況と相手の気持ちを考えて、自分のする作業を考えて進める
片づけ	—	—

「創造性」は、「確実性」の段階と照らし合わせて(確実な作業を進めることが前提となることから)、自分の作業を確実に進められるIV段階・V段階に設定している。

ア…段階とつけたい力の関連 イ…目を向ける仕事の範囲

段階	IV	V
ア	理解力・洞察力	理解力・洞察力・応用力
イ	自分の仕事の範囲	作業全体の範囲

《段階化の視点》

	IV	V
視点	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当した作業の範囲を見通して活動する ・自分の担当した範囲の作業の仕方を見通して活動する 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当した作業の前後や作業全体の作業の流れの範囲を見通して作業をする ・仕事の優先順位を考えて活動する ・自分の担当した範囲の前後の工程(作業)を見通して活動する ・相手の気持ちや仕事を考えて活動する

7. 経済性

【一般的には】

一般的に「経済性」とは、「希少な資源を有効に使うこと。費用に比して得られる収益が大きいこと、費用や手間のかからないこと、うまく節約すること」とされている

【本校作業学習では】

作業活動を中心に行う作業学習において、「経済性」とは、作業を始めるにあたって、原材料や消耗品を無駄なく使えるように作業の仕方を考えたり、原材料などを捨てずに片づけるなど処理を考えたりして作業を進めることをさしている。

将来の職業生活を営む上においても、確実に作業するだけでなく、営利を目的にする事業所などでは、原材料などを大切に扱う、無駄なく使って作業を進めるなど「経済的に作業を進める」ことは必要になってくる。また、家庭生活においても、食品や消耗品を無駄なく使うことは生活をおくる上には大切なことになる。

【経済性を身につけた子どもとは】

この「経済性」の具体的な内容には、原材料の数や大きさなどと部品や製品の出来高に目を向けさせることから、「原材料を効率的に使う、作業の仕方を工夫する」、製品や原材料の性質に目を向けさせることから、「製品や材料の取り扱い方や使う順番を工夫する」など、原材料を無駄なく効率的に使い作業を進めることが考えられる。そこで「経済的に仕事を進める子ども」とは具体的には、以下のように考える。

- ・原材料を落としたり、こぼしたりしないようにして、無駄なく使う
- ・原材料の使える部分を全部使って無駄なく作業をする
- ・部品の種類や材料の大きさから計画を立てて、大きな部品から取ったり、組み合わせて取ったりして材料取りをする
- ・賞味期限が近いものから使う
など、無駄なく効率的に作業をする子ども

【経済性を身につけさせるために必要な力】

このような「経済性」を育てていくためには、「無駄なく使う」「一つの材料からたくさんの部品をとる」ことの必要性や「大きな材料からとる」「端から順番にとる」ことのよさを理解する「理解力」と原材料の量や大きさ、性質などから材料取りの仕方や原材料の取り扱いを見通す「洞察力」を高めていくことが必要になってくる。

ところで、「経済的に仕事をする」ためには、確実に作業を進めることができることが前提になる。「経済性」は、「確実性」の段階と照らして、Ⅳ段階・Ⅴ段階に指導内容を設定している。

これらの必要な力を各段階毎に整理すると以下ようになる。

段階	必 要 な 力
Ⅳ	・材料や消耗品などにお金がかかる、無駄に使わないことなどの「理解力」 ・無駄にしない使い方を考える「判断力」
Ⅴ	・材料の取り方で 取り高が変わることを見通す「洞察力」 ・材料の状況に応じて使い方を決める「応用力」

経済性の指導内容

段階 場面	IV	V
計画・準備	—	○材料の中から使える材料を選ぶ
作業中	○使える材料(部品)が確かめて作業を進める ○原材料を無駄のないように使う ○賞味期限や使用期限などの表示を見て、使う消耗品や材料の順番を決めて使う	○材料や部品の大きさなどから、工夫して材料を使う
片づけ	○使える材料と使えない材料を分けてしまう	—

ア…段階とつけたい力の関連 イ…目を向ける仕事の範囲

段階	IV	V
ア	理解力・判断力	理解力・洞察力・応用力
イ	自分の仕事の範囲	作業全体の範囲

《段階化の視点》

	IV	V
視点	○自分の担当した作業の範囲を見通して活動する ・自分の担当した範囲の作業の仕方を見通して活動する	○自分の担当した作業の前後や作業全体の作業範囲を見通して作業をする ・たくさんとれる、無駄のない仕方を考えて活動する